

項目	評価の観点	R3	R3	R4	R4	評価		項目に関する分析・意見・提言 など ○職員 ◇学校関係者(地域等)	今後の改善に向けて
		実定評価	小項目評価	実定評価	小項目評価	自己(職員)	学校関係者		
主体的・対話的で深い学び	互いに認め合う支持的風土を育てる学級・学年集団づくりに努めた。	100.0	A	94.5	B			○規律のある学級経営をしている学級が多く、落ち着いた学習に取り組む基盤となっている。 ○多くの学級で「めあて」と「ふり返り」の活動や「学び合い」の活動を取り入れた授業づくりが定着しており、見通しを持って学習する児童や友だちと意見を交わして考えを深める児童が増えている。今後は、「ふり返り」の活動を充実させる声掛けをどの教員もしていけば、主体的・自立(律)的に学習する児童が増えるのではないかと。また、ペアやグループでの活動を活性化させる教員の指導力向上も図りたい。 ○ICTを有効活用することで、学びを活性化させることができるだろう。今後、情報部と生活づくり部で連携して情報モラル教育を推進することで、iPadの各種機能を活用する自由度を上げていきたい。また、情報部と学びづくり部で連携して効果的な活用について模索したい。 ○今年度から研究授業を核とした校内研究が再開されたことは大きな成果である。どの教員も主体的に取り組む風土を醸成し、研究協議会の活性化を図っていききたい。 ○前年度の校内研究では、現行指導要領の趣旨や社会的背景について全職員の理解を深めたことが大きな成果であった。今年度の授業を核とした研究に前年度の学びが生かされるよう、研究会等を通して適宜確認していきたい。 ○「我が校の学ぶ方向上策」にも掲げている通り、職員一丸となって取り組むことで校内研究の効果を上げたい。児童の主体性を引き出すことを大切にしていること同様、教員も一人一人が主体性をもって取り組みたい。 ○子供たちの興味関心を引く授業をしなければならぬと思う。毎時間は無理だと思うので、1日の中の1時間でも、子どもの目が輝く、興味関心の授業をすれば必ずと「主体的・対話的で深い学び」になると思う。 ○主体的な学び：生徒・児童自身が学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること ○対話的な学び：他者と協働し学び合いをすることによって、自身の考えを広げ深めること ○深い学び：生徒・児童の物の見方・考え方を促進させて、理解力や思考力をあげることの三点であるが、具体的なイメージの共有が、教員間で必要だと感じた。 ○「主体的」「対話的」の言葉の捉えがそれぞれで難しい。かといって、高い価値ばかり追い求めても仕方がないので、唐崎としての主体的な姿とはどんな姿か、対話的とはどんな姿かを具体的に話し合う必要を感じる。 ◇昨年よりも自己評価が下がっていることをコロナのせいにはできないと思う。主体的、自立的に学習する児童が増えることを期待している。教職員の方も子どもたちが興味関心を持つ授業内容の構築に尽力頂きたい。 ◇授業中に座れなかったり朝遅刻して来たりという子を多く見る。すでに対応されているとは思いますが、学習に意欲的な子たちのモチベーションがさらに上がるようなフォローも引き続き期待したい。 ◇互いに認め合う学級集団、学習集団づくりに努めていて好ましく思う。安心して学習に臨める集団であればこそ学習が進むものと思う。 ◇主体的対話的な学びを実践的に取り入れ、徐々に根付いてきていると実感する。その効果について子どもたちから発信できるような機会があれば親としてもより有意義に感じとれると思われる。	○規律のある学級経営を継続しつつ、「くらしのやくそく」を活用して指導基準の統一等も進める。 ○「我が校の学ぶ方向上策」に「ふり返り」の活動の充実を重点として挙げ、終末や目標(何を学ぶか)から逆算した授業改善を進める。その際、学習過程(どのように学ぶか)を改善することも念頭にグループワークの在り方についても吟味する。 ○研究授業を核とした校内研究を通して、指導力の向上を図るとともに、本校として目指す子ども像をさらに明確にしていく。 ○一人一人の教員が主体性を持って指導力の向上と更新に努め、年間を通して「我が校の学ぶ方向上策」に準じて指導改善を図る。 ○ICT機器の活用について、ルールを明文化したものと活用法やトラブル対処法を示したものを作成していく。
	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた (ICTの活用含む)。	85.3	B	92.0	B	B	B		
	「めあて」「ふり返り」や学び合いを取り入れた授業づくり、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を育む授業計画など、主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会に取り組んだ。	91.2	B	92.0	B				
確かな学力と個性を伸ばす教育の推進	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動を工夫した。	100.0	A	100.0	A			○道徳の指導は道徳だけで行うものではないので、交換授業や行事などを通して、学年の担任全員で学年の子どもたちを見守るという意識を高めることが必要だと思う。 ○自分のこととして置き換えることが難しい子が多いように感じています。役割演技をさせると、少し想像が膨らむようでした。「嫌な気持ち」「嬉しい気持ち」だけで終わるのではなく、教師自身がつっこみながら、より深い考えになっていくように、授業を考えていきたくと思います。 ○道徳科の授業の中だけで児童の道徳性を評価するのは難しい。すべての学校生活の中で、今この活動は道徳の価値項目の中でどこにあてはまるのかを意識して指導に当たるべきである。 ○道徳の教科書に掲載されているお話の教材教具が充実し、教科書とノートを使った授業にも慣れてきた。これからは、子どもたちの実態に合わせた投げ込み教材などの充実や教材研究にも努めていく必要があると感じる。 ○様々な園から入学してくる子どもたちが、いろんな道徳観を持つ大人に接する中で、相手を全拒否することで自分の正当性を主張するなど、親子での価値観の一般化をするために、伝えていかねばならないことが多いなと感じました。敵対するのではなく、学校教育の道徳教育の大切さを理解してもらえようこちらも、積極的に公開したり、発信したりしないといけないなと気づきました。 ○道徳は、学校、保護者、地域が連携していくことがとても重要だと思う。基本的なことが正しく行える子どもが育っていくことに期待している。 ○人に対する思いやりを育てることから、上学年が下学年の世話をするような取り組みを多く取り入れたらどうか。 ○学校生活全体を通して、クラスで起きたことを取り上げてみんなで問題を考えるという作業を丁寧にして下さっている印象を受ける。学年が上がるにつれ複雑で表面化しにくくなっていく面もあるかと思うので、保護者との連携もこまめにお願いしたいところ。 ○道徳性の心情や態度が育つには即効的なものではなく、長期的な視野が必要なこととは言ってもないと思う。また、自分の大切にされてきた育ちや自己肯定感が根底にあることも大切だと思う。人やものを大切に、リスペクトすることの心情や態度が育っていくには、その人自身が大切にされていることが必要だと思う。教育の様々な活動の場でも、一人ひとりが大切にされている実感が持てるのが大切だと思う。 ○それぞれの先生方が工夫されているのは理解できる。全体的には「人権」に対する考え方も良い方向に進んできていると思うが、依然として他人に対しての配慮に欠けた児童がいることも実態としてあります。	○道徳の授業だけでなく、学級で起こった問題について学級全体で考えるなど、学級経営と結びつける意識を持つことが大切。 ○実態に応じたものや地域に合わせた教材を入れることも理想的だが、あくまで35時間の授業をしっかりと取り組んでから考えるべきである。 ○年に1度の道徳参観を継続し、行って終わりではなく、学校や学級で大切にしていることを発信していくとよい。
	道徳科の教材、評価に関する研究を行い、資料の整備・交流に努めた。	82.4	B	86.0	B	B	B		
	道徳科の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。	26.7	D	94.5	B				
体力づくり	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	84.8	B	92.8	B			○コロナ禍の影響で体育の授業や休み時間に十分に体を動かすことが難しい状況が数年続いており、体力の低下が心配である。一方で、制限を踏まえて指導内容や方法を工夫する場面も多く、職員の意識向上には一つのきっかけになっているようにも感じる。 ○体育参観等への計画や実践を通して、指導改善が推進できている。これまで技能習得に偏りがちであった指導から、体を動かす心地よさを体感させることも大切に指導にシフトしつつある。 ○コロナ禍において、今まで以上に体力のない子どもたちが多く見られました。そのため週3回の体育で、とにかく体を動かすことや、休み時間にお天気だとしたら、外に積極的に遊びに出かける仕組みをつくり、声掛けをしました。声掛けすることで、外遊びをする子どもたちや、新しい遊び方を教えることで天大中小に盛り上がり、知らないからできない、教えることでできるようになることが多いなと気づきました。 ○コロナの関係で持久走大会や縄跳び大会にむけての全校的な取り組みができないのが残念。 ○体育の宿題に加えて、親子で運動デーといった家庭で一体となって取り組めるものがあれば、学校と家庭で体づくりについて取り組めるのではないかと考える。 ○体づくり部会が常置部会から外れていることに違和感を感じる。別の時間を確保しないといけない手間は生じるほか、他の部会との兼部により負担が増えているように感じた。 ○コロナ禍に陥ったことを理由にして、子どもにつけなければならない力を定着させる機会が減っている。 ○子どもたちの体力低下がとても心配。コロナ禍の影響も大きかったと思うが、体を動かすことの気持ちよさを是非とも体験させてあげてほしい。 ○休み時間にグラウンドで遊ぶよう促し、外遊びの充実を図ってほしい。 ○コロナ禍しか知らない低学年の子たちは、マスクを外して外で遊ぶ習慣がないのではと危惧している。また勉強よりも運動が得意な子が活躍できる場(運動会、マラソン大会)の復活も期待している。 ○運動に親しみ環境づくりに努めていて好ましく思います。 ○コロナの関係で数年間十分に授業ができない状態が続いていると思うが、先生方の創意工夫によって楽しみながら体を動かすことは十分取り組んでいるものと思われる。	○親子で「運動デー」例えば3学期に親子スポーツデー(以前実施していたファミリー学習参加)のような事を実施計画してみる。 ○体育館に1台テレビを常設し、もう少しICTの効果的な活用、底上げを図りたい。 ○学年2枚マネジメントボード(外・中)購入の方向。(来年度途中) ○なわとび大会、リレーフェスティバル等、子どもがひきこまれるような体育行事を検討していきたい。
	体育の宿題、チャレンジランキングなど、運動に親しみ環境づくりや体力づくりを推進する運動実践に努めた。	83.9	B	91.5	B	B	B		
	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。	97.1	A	94.5	B				
指導改善(縦横的・計画的)	指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。	97.0	A	93.8	B			○校内研究や「我が校の学ぶ方向上策」「学学調査を解く会」を通して、本校の児童の強み弱みや授業改善の方向性について概ね共通理解が図られつつある。しかし、様々な考えを持った職員が集まっている中では、全職員での共通実践までに至ることに難しさを感じている。教育活動等の目的や、成果や課題を測る指標を統一することで、全職員一丸となって取り組めるのではないかと。また職員会議等で合議したことは守る基本的な姿勢についても大切にしたい。 ○OJT推進により、資質向上の意欲や意識を持ちながら公務に当たる職員が少しずつ増えている。また、専門的な知識・技能を持っている職員が研修を行うことができる環境を整えたことが、指導技術の伝達の一助となっている。 ○働き方改革について「やらないといけない(やらされている)もの」「早く帰るようにするもの」「実現は難しいもの」という認識が職員間に広がっているように感じる時がある。働き方改革の利点や目的、方針や方策について共通理解した上で、教育活動の質の改善を図ることを目指したい。そのための委員会等を立ち上げてほしい。 ○一時期熱心に取り組む雰囲気があった働き方改革も下火になっているのではないかと心配している。退勤時刻は少し改善したものの、まだまだ改革は続ける必要がある。未だに根深い時間的な負担や量的な負担を評価する感覚を見直し、費用対効果に目を向けることが改革の推進において重要な要素なのではないだろうか。 ○職員間で連携を図りながら公務に当たることも重要だが、一人一人が各立場の役割を責任を持って果たそうとする姿勢も大切にしてほしい。 ○働き方改革も進むと思う。 ○ICTの活用について、メタモジのIDを都度回収・配布したい気持ちは理解できるが、指導上の手間になることが多い。学級の実態に応じて、必要な場合もあると思うが学校でそろえる必要性はないと思います。IDを自分で管理することも含めた指導に切り替えていく必要があると思う。 ○学力向上に関する指導改善という意味なら、学年としては時間のない中で教材研究をして評価の基準をそろえてみんなで前向きに取り組んでいると思う。ただ、働き方改革につながっているかはわからない。 学年の先生方の手本となるよう、積極的に定時退勤を意識し行動している。ただ、例えば授業や保護者対応のことなど、いろいろなことを尋ねられると教えることができるが、あつそれはいいぞうという態度になると、伝えられなくなるので、結局ミスをするので学んでいく形になっているかもしれないと、反省することがある。 ○働き方改革の中、様々な取り組みをされていることに感心した。まだ、改革も続くと思うが職員全体が実感できるようにするまで粘り強く推進してほしい。 ○働き方改革については、もっと加速して進めるべきだと思う。保護者による欠席連絡もとても楽になった。ただ、何でもICTを使用するのではなく、ひらがな、カタカナ、漢字など正しく書いて正しく覚えることも大切にしたい。 ○教育活動の目的や成果や課題について各職員が共通意識を持って取り組んでいるものと思われる。	○学校教育目標と現在の本校の課題から「我が校の学ぶ方向上策」を協議し、全教員で取り組む。また、その成果を現行学習指導要領の趣旨に沿った指標で測り、適宜改善を図る。 ○今年度からの取り組みを継続し、全職員資質向上の意欲を持って公務にあたる。取り組みを持続するために、推進リーダーが日常的に働きかけるとともに、学びづくり部会からも取り組みの活性化を促す発信をする。 ○働き方改革に関する委員会等を立ち上げることを検討し、働き方改革の利点や目的を確認したり、本校における方針や方策を協議・共通理解したりする。 ○組織としての連携を重視しながら、どの職員も主体性を持って自己の役割を果たすことに努めることも大切にする。日常的に課題意識や改革意識を持てるようにする。 ○ICT機器についてのルールを危機管理と活用促進の両輪で協議する。また、それを明文化して共通理解を図る。
	職員研修、会議等を通して、学校全体としての教育力、指導力の向上に努めた (ICTの活用含む)。	84.8	B	92.8	B	B	B		
	働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めた。	85.3	B	80.0	B				